

教科等研究会（中学校国語部会）

平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

生徒一人ひとりが輝く「わかる・できる」「楽しい」国語科授業づくり

2 研究経過

	第1回（年間計画等作成）	第2回（夏期研修会）	第3回（研究授業）
期 日	5月26日(木) 半日	8月18日(木) 1日	1月27日(金) 半日
人 数	20人	20人	19人
場 所	甲佐町立甲佐中学校	甲佐町立甲佐中学校	山都町立矢部中学校
授業者・講師	・研究テーマ・組織等決定 ・2部会に分かれ授業研究 A 説明的文章部会 B 伝統的な言語部会	講師：三省堂国語教科書第一編集室 石戸谷直紀編集長、 「現代の国語」編集部 佐野郁世氏、九州支社 福留 勉氏	授業者： A 坂田友紀教諭 B 寺田亜紀教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

平成28年度の研究テーマを「生徒一人ひとりが輝く『わかる・できる』『楽しい』国語科授業づくり」と設定し全員で研究を進めた。

ア 郡内は熊本地震で被災した町・学校が多い中、5月・8月に何とか無事だった甲佐中学校を会場として使わせていただき研究会を実施することができた。各学校施設が完全に復旧していない中に、どのような1年間・そして研究会にしていけることができるか真剣に話し合うことができた。

イ 夏期研修会に向けて東京の教科書会社と連絡・調整を行った。当日は、三省堂国語教科書第一編集室から石戸谷編集長はじめ3人を招聘し講話をしていただいた。上益城郡採用の教科書「現代の国語」について、内容・指導書・ワークシート等の研修を深めた。教科書を作る側と実際使って生徒に指導する側からの直接の意見交流ができたことは意義深いことであった。特に教科書の内容やワークシートに関する質疑応答や今後に向けて工夫改善の相談ができたことは大きな成果であった。また、1月の研究授業の事前研修もスタートした。

ウ 放課後の時間を使い部会ごとに集まり、事前研究会を何度も開き研究を進めることができた。部会は経験年数や学校を考慮して分けたのでみんなで一緒に研究をすることで国語部会の結束も強くなり、またいろいろ相談をし合うことで大変勉強になった。

エ 1月27日には矢部中学校で、A説明的文章部会とB伝統的な言語部会の2つの研究授業を実施できた。

(2) 成果と課題

ア 成果

- ① 各研究会では、年度当初からワールドカフェの手法を用いて会議を進めていったので、先生方の意見も出しやすくなったようだ。何度も同じ手法を使い研究会を進めてきたことで、研究会の進め方に対する経験と理解が深まったことが功を奏したといえる。
- ② A・Bの分科会とも生徒の顔が上がり、笑顔の見られる授業であった。授業者はもちろん、



A部会の授業の様子



B部会の授業の様子



班の話し合いの様子

全員の部会員で作ってきた研究授業であったからこそその成果だと思われる。A部会授業では、ゆうチャレンジの三角ロジックの過去問題も取り上げたことで大変勉強になる授業となった。また、B部会授業では、日頃お世話になっている先生方の顔写真も登場させることで、生徒たちの興味・関心を高める授業となり工夫が感じられた。

イ 課題

- ① 1月の研究授業では、A部会のワークシートで、文章を書くべきところに単語は入れられるが、なかなか文章化できない生徒がいた。また「主張」と「事実」をどう書くべきか悩んでいる生徒も見られた。このようなときにどんな助言をしたらいいか考えていかねばならない。
- ② A部会の研究授業では、電子黒板を復習に使い、B部会ではホワイトボードを復習に使ったが、国語従業でICTをどんな場面で、どう取り入れ、どう活用するかが難しいということが挙げられた。今後さらに工夫して取り組んでいきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

○説明的文章部会（三省堂1年「玄関扉」）

ア 授業者自評から

電子黒板を用いて前時の振り返りができたので生徒が理解しやすかった。話し合いにはスモールステップを3段階設定していたので取り組みやすかった。しかし、時間が不足したことと、スモールステップ2から3へ移るところがやや難しく、もう少し工夫が必要だった。

イ 研究協議から

ICTを活用し前時の学習内容を振り返れたのがよかった。学習方法や例文を工夫することで、三角ロジックを楽しく学ばせることができた。生徒にとっては初めての学習であったので、最初とまどっている生徒もいたが、今回の授業を通して三角ロジックの手法の基礎・基本を学ばせることができた。

○伝統的な言語部会（三省堂2年「徒然草」）

ア 授業者自評から

視覚化と例示が有効的だった。分類のワークシートのたて軸が生徒たちにはややとらえにくかったようだ。工夫改善の必要性を感じた。

イ 黒板とホワイトボードを利用し、前時までの学習を復習することができた。先生方の顔写真やカード、工夫されたワークシートを用いることで、楽しく古典を学ばせることができた。

○まとめ

今村校長先生から「研究授業の進め方・見方」に関する話があり研究を深めることができた。また、その後は本年度ご退職ということで、これまでのご経験をもとに講話をしていただき、部会員全員で聞かせていただくことができた大変勉強になった。

(2) 学習指導案

A部会の指導案

第1学年2組 国語科学習指導案			
日 時	平成29年 1月27日（金）第5校時	場 所	山都町立久部中学校 1年2組教室
指導者	教 諭	坂田 友紀	
1 題材名 「玄関扉」（三省堂 p124～p129）			
2 題材について			
(1) 題材概観			
本教材は、主として中学校学習指導要領国語科第1学年の指導事項「読むこと」のイ「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること」、オ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること」の内容を受けて設定されている。本文は、「なぜ日本の玄関の扉は外に開くのか」という問いに対して、筆者が具体的な生活場面を例にあげながら「外開き」と「内開き」を比較していくものである。その後、場面を変えれば別の解釈も成り立つということを論証していく。筆者の考察により日本と欧米との文化の比較にまで深まっていく教材である。この教材の特徴は、新情報によって論が展開していき、読者にとっても既知の事項を容易に想像できる事柄に基づいて論が進められる点である。こうした、論理の積み重ねによる展開のおもしろさを味わうことができる教材である。			
(2) 系統概観			
1年	2年	3年	
「ケジラの飲み水」 ・文章の展開を捉える ・筆者の表現の工夫を捉える	「人間は他の星に住むことができるのか」 ・全体と部分との関係に着目して読む ・構成について自分の考えをまとめる	「関の文化」 ・論理の展開に注意して主張を読み取る ・文化の違いについて自分の意見をもつ	
「食感のオノマトペ」 ・事実と筆者の考えを読み分ける ・オノマトペの意味や効果について自分の考えをもつ	「見えないチカラとキセキ」 ・選んだ本から適切な情報を得て、考えをまとめる	「フロム規制の物語」 ・文章の展開の仕方・小見出しの意図や効果について考える ・「科学技術の発達」に對する筆者の考え、自分の考えを広げる	
「玄関扉」 ・事実と意見と理由を読み分ける ・文化の違いについて自分の意見をもつ	「壁に残された伝言」 ・筆者の思いを捉える ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ		
「この小さな地球の上で」 ・語句の意味を的確に捉える ・ものの見方や考え方を広げる	「動物園でできること」 ・例示の効果に注意して主張を読み取る ・筆者の考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ		

(3) 生徒の実態

本学級は男子12名、女子18名、計30名である。生徒たちは、大変明るく、発言が多い学級である。概ね集中して聞くことができる。しかし、集中力にかけたり、授業についていくことができない生徒が数名いる。

平成28年度熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」中学校第1学年 国語

課題・学習指導要領の内容等	無答・無答
①目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること	33.3%
②表現の特徴について自分の考えをもつこと	56.7%

3 題材の指導目標及び評価基準

(1) 題材の目標

- 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。〔読むこと（イ）〕
○文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。〔読むこと（オ）〕

(2) 評価目標

関心・意欲・態度	読むこと	話すこと・聞くこと	知識・理解・技能
・事実と意見と理由を読み分けて要旨を捉え、自分の意見をもっている。	・文章の事実と意見を読み分け、要約や要旨を捉えている。（イ） ・「玄関扉」の例を中心に、文化の違いについて、自分の考えをもっている。（オ）	・読得力をもつように、話の構成や対話の展開に工夫して話している。（イ） ・わかりやすく印象に残る語句を選んだり、声の調子や身振りなどに变化をつけたらして、相手に伝える効果を考えたりしている。（ウ） ・立場や目的にそって効果的に話したり、発言の物徴に注意して聞いたりして、自分の考えをまとめている。（オ）	・事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、文章の筋道をたてて関心をもっている。（イ）

4 指導計画及び評価基準（8時間扱い/本時4/8）

次	時	学習活動	指導上の留意事項	関	読	話・聞	評価基準及び方法
1	1	○本文を通読し、前半と後半の部分に分ける。	・玄関扉の構造を造り、生徒の興味、関心を引くようにする。 ・本文を読む時、形式段落に分けてから読み進めることで内容をつかみやすくする。 ・ペアで読み進めることで、お互いにわからないところは教え合うことができるようにする。	○	○		・本文を手作業をしながら読むことができる。 ・「読む」（教科書に載った） ・本文を「生活様式」と「生活習慣」に分けることができる。 ・「読む」（ノート）

A部会の指導案

国語科授業プラン (1)年(2)組 授業者(坂田 友紀) 平成29年1月27日(金) (1年2組教室)

題材名(玄関扉) 本時(4/8)

①このような生徒に		②このような力を付けるために	★本時の目標行動	③このような指導の工夫をします
○話し合い活動の時に自分の考えをもてない。 ○自分の伝えたいことを説明できない。		○文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 (「読むこと」(オ))	三角ロジックの主張と事実をつなげる理由付けを書くことができる。	○より説得力のある理由付けを考えるためにスモールステップで練習をさせる。 【のスモールステップ化】
指導のテクニック ①ひきつける 視覚化 ②むすびつける 共有化 ③方向づける 焦点化 ④そろえる 共有化 ⑤わかったと実感させる ⑥時間の構造化 ⑦スモールステップ化 ⑧動作化・作業化				
学習活動(分)	発問・指示・説明	具体的な指導の工夫		備考(指導のテクニック・教具・ICT・形態等)
導入 1 前時の復習を行う。(5)	・「玄関扉は、欧米で内側に開く」という事実に対して筆者はどんなことを主張していますか。また、その理由はなんですか。	・前時で学んだ三角ロジックを確認する。		①ICTを使い確認する ④既習事項の共有化をする
展開 2 三角ロジックを活用して説明上手になろう。	・例1「雨」の例 例2「スニーカー」の例 (自分の今までの知識、経験を入れることで相手の納得させる理由付けになることを押さえる)	・視覚的にわかりやすいように教材の工夫を行う。 ・個からペア、全体という形態を取る。		⑦学習活動2→3→4とスモールステップで思考を高めていく ①「雨」「スニーカー」の例を図解する ②個→ペア→全体 ③一度した問題に再チャレンジする ④グループで答えを説明し合う。
2 三角ロジックを使い理由付けを考える。(15)	・ワークシート1のステップ3を考える。 ・ワークシート2の文章を(100～140字)を書く。	・三角ロジックを使い考える。(主張、事実、理由を考える) ・「平成25年度ゆりチャレンジ」の大問4の(5)再度考えさせる。 ・ペアで答えを説明し合う。 ・問題を解くことで三角ロジックの力がついたかどうかを評価する。(前回解いたときの答えとどのように変わったか比較させる)		理由づけを考える ↓ 事実・主張を選んで理由を考える ↓ 事実・理由・主張を考える
3 三角ロジックを使って一度やったことのある記述問題に再チャレンジする(20)				
終末 4 振り返り(10)	・この三角ロジックをどんな場面で使えるか考えてみよう。	・三角ロジックをどのような場面で使えるか考えることで日常生活に生かすようにする。		⑤単元計画

A部会指導案 ↑

B部会指導案 ↓

第2学年2組 国語科学習指導案

日時 平成29年1月27日(金) 第5校時
場所 山都町立矢部中学校 2年2組教室
指導者 教諭 寺田 重紀

1 題材名 徒然草 (三省堂 P101～103)

2 題材について
(1) 題材観
「徒然草」は、14世紀前半(鎌倉時代後期)に成立した兼好法師による随筆である。社会や人生の諸問題、自然の情緒、教養や趣味、有職故実など、その内容は多岐に渡り、現代にも通じる普遍的なものを多く含んでいる。鋭い観察眼と細やかな感性に支えられた軽妙な筆致が人気で、時代を超えて多くの人に愛読されている。
その「徒然草」から、序段と第5段と第9段が取り上げられている。筆者の見聞と意見という構成で、簡潔でわかりやすい内容となっている。中学生が、古典の随筆を楽しむのにふさわしいものといえる。生徒が、仁和寺の法師の勘違いを自分の経験に照らし合わせて考えることができる題材で、古典の世界を身近に感じさせられる。
第5段の独り合点に陥った法師のおかしさ、先達的重要性などは、生き方の問題として、現代でも通用する考えである。生徒に、ほかの章段も読んでみたいと思わせられ、読書の意欲も高められる単元である。
念願であった石清水八幡宮を訪ねながらも参拝を果たせなかった仁和寺の法師の滑稽さ。その姿をやや皮肉に描くとも取れる語り手の人間観察の鋭さ。兼好ならではのものの見方や考え方がよく表れている。短中にも、構成の巧みさや言葉や表現の工夫が随所に見られる文章である。そこには、作者が世の読者を意識して執筆した気配が感じられ、随筆のルーツの一つと呼ぶにふさわしい。文語と口語の違いこそあれ、現代の随筆と同じように文章の構成や表現の工夫を学ぶことのできる教材である。また、最後の一文「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。」を自分の経験に引き寄せて読むことで、700年ほど昔の人が書いた文章から現代の自分たちの生活にも通じるメッセージを感じ取ることができたなら、子どもたちは、古典の世界をより身近なものとして実感し、より親しみをもつに違いない。古典とのよい出会いと、そのおもしろさを読み解く学習の体験を通して、生涯にわたって古典に親しむ態度の素地を養うことに主眼を置く。

(2) 系統観

1 年
古典との出会い

○月を思ふ心(解説)
○竹取物語
○古典の仮名遣い(解説)
○故事成語 矛盾
○漢文の読み方(解説)

2 年
古典に親しむ

○枕草子
○徒然草【本時】
○平家物語
○漢詩の世界
○漢詩の形式(解説)

3 年
古典を楽しむ

【音読を楽しもう】
○和歌の世界(解説・和歌)
○おくの小道
○論語
○漢文の読み方(解説)

2	1	○前半の「生活様式」と後半の「生活習慣」から見た、玄関扉をまとめる。	・ワークシートを用意し、整理しやすいようにする。 ・日本はなぜ外開きの生活様式なのかの理由を考えさせる。その後に日本の生活様式がどうなっているかを考えさせる。	○	○	・日本の玄関扉が外開きである理由を文章の前半「生活様式」と後半の「生活習慣」からまとめることができる。 【読む】(ワークシート)
3	1	○本文を使い三角ロジックの論理を理解する。	・先ず本文をもとにして、三角ロジックの主張と事実を考えさせる。	○	○	・同じ事実であるにも関わらず、主張や理由が変わることを理解することができる。 【読む】(ノート)
4	1	○三角ロジックを使えるようになる。	・前時に学んだ三角ロジックを視覚的に示す。 ・スモールステップで三角ロジックを考えさせる。	○	○	・スモールステップで主張、事実、理由を考え、それを使い文章を書くことができる。 【読む】(ノート)
5	1	○「玄関扉」にサブタイトルを考える。	・サブタイトルの選択肢を用意し三角ロジックをもとにして考えさせる。	○	○	・三角ロジックを使い「玄関扉」のサブタイトルを考えることができる。 【読む】(ノート)
6	1	○討論ゲームをするために必要なことを考える。	・わかりやすく印象に残る言葉は何か考えさせる。 ・話し方や身振りなどが相手にどのような印象を与えるか考えさせる。	○	○	・討論ゲームをする上で大切なことを理解することができる。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート)
7	1	○討論ゲームの準備をすることができる。	・「論理で迫る場合」と「感情に訴える場合」どちらが相手を読ませることができるか考えさせる。	○	○	・三角ロジックを使い「論理で迫る場合」と「感情に訴える場合」の両方の発表の仕方を考えることができる。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート)
8	1	○討論ゲームを行うことができる。	・どの班の内容が相手を納得させるものであったか考えさせる。また、どの点が納得させる部分であったかも考えさせる。 ・「論理で迫る場合」と「感情に訴える場合」の特徴を考える。	○	○	・三角ロジックを使い討論することができる。 【話すこと・聞くこと】(ワークシート)

B部会指導案 ↓

題材に関する「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項 (◎は重点指導事項・○は指導事項)	1年	2年	3年
古典特有のリズムに気づき、特徴をつかむ。	◎	○	
古典を音読したり朗読したり暗唱したりする。	◎	◎	
文語のきまりや訓読の仕方を理解する。	◎	○	
現代語訳や語注などを手冊かりにして作品の内容を理解する。		◎	
歴史的背景をふまえて古典を読む。			◎
古典を読んで、そこに描かれる世界を想像する。		◎	
語句の意味を理解し、作品を引用して自分なりに表現したり、自分の表現に役立てたりする。			◎
様々な種類の古典作品があることを知り、他の作品と結びつける。	◎	○	
古典を読んで、古人と今人とのものの考え方や感じ方や見方などについて比較したり、意見をまとめる批評したりする。		◎	○
古典に関する文章を読んだり、映像を見たりして、古人のものの見方や考え方を想像する。		◎	○
古典を読んで、人間や社会や自然などについて認識を広げたり、考えを深めたりする。			◎

※太枠部分が本題材の重点指導事項

(3) 生徒の実態

本学級は、男子19名、女子11名、計30名である。

1年生で学習した「竹取物語」を使って、レディネサーストを行った。結果は以下の通りである。

調査人数は29人。この結果から、古典に苦手意識をもち、古典の世界を想像することを楽しむことが苦手な生徒が多くいることがわかった。また、歴史的仮名遣いや古語の意味、主語を補って読むなど、音読や内容を読み取るための基礎的・基本的な知識技能が、定着していない学習集団といえる。「竹取物語」の内容について心に残っている場面を記述させたところ、登場人物の行動や心情に対する感想を具体的に書いている生徒がいた一方、覚えていた場面の記述だけであった生徒も全体の3分の1ほどいた。具体的に書いていた生徒は、登場人物の思いや考え方に對して自分の考えを書いており、古典の世界を身近に感じながら物語を読んでいることがわかった。

	好き・ほぼ好き	あまり好きではない・嫌い
国語について	20人	9人
古典について	3人	26人
	正答	誤答 無回答
「伝統的な言語文化と国語の特質について」の理解		
現代仮名遣い	5人	21人 3人
助詞を補うこと	12人	14人 3人
主語を補うこと	15人	14人 0人
古語の意味	7人	13人 9人
登場人物の行動や心情について	3人	15人 11人

3 題材の指導目標及び評価基準				
(1) 題材の目標				
① 古典の文章を朗読してその表現に慣れ、作品を読み、味わう。〔伝国 (1) ア(ア)(イ)〕				
② 描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、作者のものの見方や考え方について読み、自分の考えをもつ。〔読 (1) イ・エ (2) ア〕〔伝国 (1) ア(イ)〕				
(2) 評価基準				
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
①「徒然草」の表現に慣れ親しみ、内容について理解しようとしている。(ワークシート・観察・音読テスト)	① 描写の効果、登場人物の言動の意味、筆者のものの見方、考え方について理解している。〔(1) イ(1) (観察テスト)〕	①「徒然草」を朗読し、表現に読み慣れ、作品を読み味わう。〔(1) ア(ア)(イ) (ワークシート・音読テスト)〕		
		② 登場人物の言動の意味、筆者のものの見方、考え方について想像することができる。〔(1) ア(イ) (ワークシート)〕		

4 指導計画及び評価基準 (3時間扱い 本時2/3)				
時	学習活動	指導上の留意事項	関 読	評価基準及び方法
1	○基礎知識の確認。 ○冒頭部分の音読、内容確認。 ○第52段の音読。 ○仁和寺にある法師が勘違いしたことを探る。	・作品が成立した時代背景や作者の生涯などを捉えさせたり、冒頭部分に表現されている執筆のいきさつを知らせたりすることで、随筆の理解の手がかりにする。 ・歴史的仮名遣いを復習させながら音読させる。 ・個人から班、全体へと広げることで確実に仁和寺にある法師の勘違いを理解できるようにする。 ・必要に応じて図や資料を使用するよう指示する。	○ ○	◆正確さ、速さ、リズムなどに気をつけて音読している。〔伝国 (音読の様子・暗唱テスト)〕 ◆仁和寺にある法師の勘違いを理解している。〔読む・伝国 (ワークシート)〕
2 [本時]	○52段の章の最後の一文を考え、分類する。	・作者(兼好法師)と仁和寺にある法師は同一でないことを確認し、第三者としての視点で書くことを整理させる。 ・記述や分類の基準となるものを示し、思考する際の手がかりにさせる。 ・班で発表する際は、台詞として言うことで、一文の意図やニュアンスを他の班員の人にわかってもらえるようにする。	○ ○	◆内容を理解し、エピソードに沿った最後の一文を考えることができる。〔伝国 (ワークシート)〕
3	○第92段の音読。 ○「懈怠の心」について意見交換する。	・他の章段も紹介し、エピソード+筆者の意見から構成されていることを捉えさせる。 ・「懈怠の心」について話し合わせ、兼好法師は読み手に何を伝えたいのかを考えさせる。	○ ○	◆主題について、自分なりの考えを持ち、意見交流できる。〔伝国 (話し合いの様子・ノート)〕

国語科授業プラン (2)年(2)組 授業者(寺田 亜紀) 平成29年1月27日(金) (2年2組教室)

題材名 (徒然草 三省堂P101～103) 本時 (2/3)

①このような生徒に

②このような力を付けるために

★本時の目標行動

③このような指導の工夫をします

○古典の世界を楽しむという経験がほとんどない。 ○筆者の見方やものの考え方を想像することに困難を感じている。	○筆者の見方やものの考え方を楽しく想像することができる。 〔伝国 (1) ア (イ)〕	徒然草「第52段」の内容に合った最後の一文を完成させることができる。	○例示を行うことで、見通しを持たせ、最後の一文の思考の手がかりにする。〔3〕 ○最後の一文を考えさせることで、現代と古典の時代をクロスしながら読む。〔2〕 ○最後の一文を分類することで、自分や他の人の考えたものを批評しながら読む。〔3〕
---	--	------------------------------------	--

指導のテクニック ①ひきつける 視覚化 ②むすびつける 共有化 ③方向づける 焦点化 ④そろえる 共有化 ⑤わかったと実感させる ⑥時間の構造化 ⑦メモ・録音・99化 ⑧動作化・作業化				
学習活動(分)	発問・指示・説明	具体的な指導の工夫	備考(指導のツカ・教具・ICT・形態等)	
導入	1 第52段を音読する。(3) 2 前時の確認をし、本時の流れを知る。(5)	・第52段を音読しましょう。 ・仁和寺にある法師の勘違いは何だったでしょう。 ・結局、法師は八幡宮に行けたのでしょうか。	・法師の勘違いが何かを確認する。 ・仁和寺にある法師が結局石清水八幡宮には行っていないことを確認する。 ・仁和寺から石清水八幡宮までの距離など補足する。	④ペア読み ④既習事項を共有化する。(短冊、地図、ホワイトボード)
展開	「仁和寺にある法師」の最後の一文を完成させよう。 3 最後の一文を考える。(30) ①個人で考える。 ②班で発表し合う。 ③全体に発表する。 4 兼好法師の一文を分類する。(5)	・あなたが筆者だったら、最後にどんな一文を付け加えますか。 ・考えた文を発表し合ひましょう。 ・全体にオススメしたい文を紹介しましょう。 ・兼好法師の一文を分類してみよう。	・例示を行い、見通しをもたせる。 ・付箋に個人で考えてから書かせ、班で意見交流させる。 ・分類表に書いた一文を分類させ、他の人の意見を批評しながら話し合えるようにする。 ・オススメの文を考えることで、よりエピソードにふさわしい表現は何か考えさせる。 ・第52段の趣旨を理解している文や書き方に工夫のある文などを取り上げる。 ・自分の意見と比較し、今も昔も変わらない同じ感覚や考え方があつたことを気づかせる。	③例示 ⑦個人→班→全体 ②3～4人班 ③分類表 ④短冊 (班のイチ推し文) ②付箋 (兼好法師の一文)
終末	5 本時の振り返りをする。(7)	・「わかったこと」を報告しましょう。	・ワークシートに記入後、班で報告させる。	⑤ワークシート